

I. Michael Tooley 教授講演会のお知らせ

日本科学哲学会会長 坂本百大

下記の通り、Michael Tooley 教授の講演会を開催いたします。会員の皆様には奮って御出席下さいませようお願い申し上げます。

記

日時： 1999年5月22日(土) 15:00 ~ 18:00

場所： 日本大学会館 6階 601A会議室〔JR市ヶ谷駅徒歩3分〕

〔会場は、都合により「日本大学哲学研究会」という名称で予約してあります。〕

提題者： Michael Tooley

題目： A Causal Theory of the Direction of Time

特定質問者：西脇与作(慶応大学)、丹治信春(都立大学)、一ノ瀬正樹(東京大学)

今回の Tooley 教授の来日は、日本学術振興会外国人招へい研究者として東京大学文学部に招かれてのものです。

講演会終了後、Tooley 教授を囲んで懇親会を予定しています。

会員以外の方の参加も歓迎致しますので、関心のある方をお誘いいただければ幸いです。

Michael Tooley (マイケル・トゥーリー)教授紹介

一ノ瀬正樹(東京大学)

生年月日：1941年3月17日

現職：コロラド大学哲学教授

(Professor, Department of Philosophy, University of Colorado at Boulder, USA)

主な職歴：スタンフォード大学哲学助教授、オーストラリア国立大学研究員、マイアミ大学哲学準教授、西オーストラリア大学哲学教授、オーストラリア国立大学上級研究員、などを歴任。1983-84年にはオーストラリア哲学会会長

主な業績

著書：Abortion and Infanticide, Oxford University Press, 1983.

Causation: A Realist Approach, Oxford University Press, 1987.

Causation (co-ed.), Oxford University Press, 1993.

Time, Tense, and Causation, Oxford University Press, 1997.

論文: “Abortion and Infanticide,” in *The Rights and Wrongs of Abortion*, ed. by M.Cohen et al, Princeton University Press, 1973. (邦訳あり)

“Laws and Causal Relations,” in *Midwest Studies in Philosophy*, vol.IX, University of Minnesota Press, 1984.

“The Nature of Causation: A Singularist Approach,” in *Canadian Journal of Philosophy*, Supplementary 16, 1990

“Causation: Reductionism versus Realism,” in *Philosophy and Phenomenological Research* 50, Supplement, 1990.

など

トウリー教授は、人工妊娠中絶や嬰兒殺しなどの生命倫理上の問題とからめて、持続的主体としての自己概念の所有とそうした主体としての自己自覚を軸とする、現代的な人格論を展開している。また、哲学的因果論の分野では、因果関係をそれとは別な事象に基づけて理解する伝統的な「還元主義」の立場を斥けて、因果関係それ自体を世界の基本的事象と捉える「實在論」の立場を強く打ち出し、しかもそれを過去・現在と未来との非対称性にのっとった動的世界観へと結びつけている。教授の因果論の特徴は、因果概念と時間概念との緊密な連関を射程に入れながら、意味論的観点、あるいは量子論や相対論との対応づけなど、現代的な切り口から因果の問題に向かっていく点にあるといえる。



編集後記 事務局近況報告

「ニュースレター」10号に余白ができてしまいましたので、会員の皆様に特にお知らせする必要がある訳でもありませんが、以下に事務局の近況を記します。

現在(4月20日現在)事務局では、新年度の各種行事の合間を縫って以下の仕事をしています。

1. 『科学哲学』32巻1号作製(連休前に版下入稿・5月15日頃に会員各位に発送)
2. 「ニュースレター」10号作製(この号です)
3. 「ニュースレター」11号作製(連休前に版下入稿・5月15日頃に会員各位に発送)
4. 日本学術会議第18期登録申請(5月31日締め切り)準備

という次第ですので、連休明けには皆様のお手元に『科学哲学』32巻1号と「ニュースレター」11号をお届けできることと思います(雑誌は「学術刊行物」扱いで郵送できます 料金は1通たった85円・書籍小包だと240円か310円)ので、経費削減のため、これらは別便でお届けします。

また、前回『会員名簿』を改訂・発行したのは1996年11月1日であり、それから3年が経過致しますので、慣例に従いまして1999年11月1日に新しい『会員名簿』を発行する予定です。連休明けに(「ニュースレター」11号と一緒に)「会員名簿記載事項確認用紙」をお送りしますので、確認・訂正何卒よろしくお願ひ申し上げます。

(幹事・古田智久)